〔論文〕

幼稚園教諭・保育士養成課程における造形の授業が有する課題に関する文献レビュー

大　塚　貴　之　　稲　田　達　也
Takayuki Otsuka　　Tatsuya Inada

大阪総合保育大学大学院
児童保育研究科　児童保育専攻

豊岡短期大学
こども学科

幼児は自由な発想による造形を数多く体験することを通して、新奇なものに感動したりしながら感性を磨くことが期待されている。そのような体験を可能にする保育者を養成するため、保育者養成校においてさまざまな授業が展開されている。本研究では、保育者養成校における造形の授業が有する課題、及びその解決のための授業実践について12本の論文を基に文献レビューを行った。先行研究から読み取れる課題としては大きく分けて二つのパターンがあり、「学生側に起因している課題」として「理解や経験の不足」と「造形に対する苦手意識」に対してのアプローチが検討、実践されていることが明らかになった。一方、「教員側に起因している課題」も検討されており、教員側が幼稚園教育要領などを深く理解し五領域を俯瞰する視点を持つことや、コロナ禍による授業方法の変更への対応等、工夫しながら授業実践が行われることの必要性が指摘されている。

キーワード：幼稚園教諭・保育士養成課程、五領域「表現」、造形

Ⅰ　問題と目的

1　保育者養成校の造形における課題

2017（平成29）年３月に改定された幼稚園教育要領では、領域「表現」のねらいとして、「（１）いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。（２）感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。（３）生活の中でイメージを豊かにし，様々な表現を楽しむ。」と示されており、保育所保育指針においても幼稚園教育要領との整合が図られている。この「表現」の中身として、幼稚園教育要領解説（文部科学省，2018）においては、「幼児は音楽を聴いたり、絵本を見たり、つくったり、かいたり、歌ったり、音楽や言葉などに合わせて身体を動かしたり、何かになったつもりになったりなどして、楽しんだりする。これらの表現する活動の中で、…」と記されており、著者の所属する短期大学では、言語表現や音楽表現、リズム表現、造形表現に関する授業科目を設定し、領域「表現」に関する総合的な指導力を修得させることを目指している。本研究において扱う「造形」は、上述した「つくったり、かいたり」することを指す。

本来高等学校までに身につけておかなければならない資質や能力が不十分なまま、短期大学に入学してくる学生の割合は、年々大きくなっている（佐藤，2020）と指摘されており、限られた時間の中で免許・資格取得に必要な学習、そして社会人としての学びの機会を提供し、学習成果を達成させることは教育機関にとっても容易なことではないとされている。この課題については造形分野においても指摘されており、山田ら（2020）は、実習活動を振り返る学生の言葉から、教育現場を俯瞰的に見ることの難しさと、前向きに捉えきれない事例に遭遇した学生へのフォローアップの必要性が明らかになったとし、造形活動についてネガティブな意見が散見されるとした。また現場の保育者の間でも造形において自己の苦手意識に引っ張られ、「上手に描かせなければいけない。」と考えがちであり、それにより指導に対してさらに難しく捉えてしまう場合がある（中島，2019）。他にも、幼児期や児童期の子どもを指導する際に、教員の多くが苦手意識をもって造形活動を行っていることも明らか（松下，2015）となっており、佐善（2011）は、大学入学時点において今までの学校での美術・図画工作で創造の喜びや作品制作の充実感を感じることがなかった学生が半数以上いたことを明らかにした。

保育現場ではさまざまな手法により造形活動が行われており、それをカバーするために保育者養成校においてもさまざまな指導が工夫されている。例えば岩田(1993)は、モダンテクニック・オートマティスムなどの手法が、保育者養成校の教材として採用されていることを指摘した。一方、金山（2001）は、保育現場ではモダンテクニックの種類については知っているが実践を行った経

験がない者の割合が高く、保育者養成校で学んだことが保育現場で有効活用されない場合があることを指摘し、保育者養成校の授業実践方法に一層の創意工夫を求めた。また、保育現場で期待される、幼児の新奇なものに触れた時の感動や興味・関心を誘発できるような体験を保育者養成校において学生自身が体験できておらず、それに伴い、子どもたちの表現力の低下を懸念する声もあがっている（林，2013）。

本来幼児は造形を通じて発達が促されたり新奇なものに感動したりしながら感性を磨き、自由な発想で造形や芸術を楽しく感じることのできる活動を数多く体験することが期待されているはずである。金山（2001）も指摘しているが、「保育者の力量に幼児の経験が左右され」るのであり、保育者養成校における造形の授業内容改善の取り組みは、子どもたちの表現領域の育ちに貢献するものであると考えられる。これらを踏まえ、保育者養成校においてどのような授業実践ができるのだろうか。

2　本研究の目的

そこで本研究では、これらの課題に対し、保育者養成校ではどのような取り組みが行われているのかに視点をあて、保育者養成校の取り組みについて分析し、保育者養成校の造形における授業展開の在り方や改善方策について検討することを目的とする。具体的には、幼稚園教諭・保育士養成課程における造形の授業改善の取り組みに関する論文の中から、量的・質的なデータに基づき課題を検討しているものを抽出してレビューを行い、幼稚園教諭・保育士養成課程の造形の指導における課題およびその解決方法について検討する。

Ⅱ　方法

2020 年 7 月に国立情報学研究所の文献情報・学術情報サービス（CiNii Articles）を用いて論文検索を行った。収集されている保育者養成における造形に関する論文として「保育」and「造形」and「課題」および「保育者養成」and「造形」で検索を行った結果、合わせて 332 件の論文が検索結果に表示された。その中から 2000 年から 2021 年の 22 年間に大学または短期大学および専門学校において造形指導の課題について触れられているものを選定した。その上で質的・量的な効果測定が行われているものに絞り 12 件を抽出し、これらの文献を研究対象とし内容を分析し、考察を行った。

Ⅲ　結果

抽出した文献の概要は表１の通りである。

保育者養成校の取り組みとして造形指導について触れられた課題のうち、学生が入学時から抱えている、造形に対する理解不足であったり造形が不得手であったりすること、また、興味関心の希薄化による授業時の学習効率の低下や子ども理解といった、「学生側に起因している課題」である場合と、授業環境の整備に関する課題や学ぶ環境の変化への対応方法といった「教員側に起因している課題」の２つに大別されていることが見て取れた。

さらに「学生側に起因している課題」については、造形の経験や生活経験が乏しく応用力のない学生（No.7・No.12）、子どもと絵のテーマに応じて指導する重要性や子どもを理解し造形指導につなげる活動の可能性（No.２・No. ９）などのより理解を深めていく必要性に類するものが計４件あり「理解と経験の不足」とした。改善策として、子どもの絵を模写したり自身が自分の子どもの頃に戻った感覚で描画活動を体験したり何度でもやり直しができる ICT を活用したコマ撮り体験をしたりすることで一定の効果があったことが明らかとなった。

一方で、「環境に目を向ける意識の低下」（No. １）や、「今まで学校での美術・図画工作において、創造の喜びや作品制作の充実感を感じることがなかった」と回答した学生も 49.4% に達した（No. ４）などの授業や造形そのものに対する「興味・関心の低下」と、「小さいころから、絵を描くのが下手」「見たとおりに思ったように上手く描けない」「絵を描くのが嫌い」（No. ３・No. ５・No. ８・No. 10）など「造形に対する苦手意識」計６件の２つに大別された。「興味・関心の低下」に対する改善策として、普段意識していないものを徹底的に観察したり、新奇なものを題材とした造形の授業を実践したりすることで興味・関心を誘発し、一定の効果が期待できることが明らかにされた。

また、「教員側に起因している課題」としては五領域の領域間の連関性の希薄化（No. ６）が問題視されていることと、造形の遠隔授業の実践方法に関する課題検討（No. 11）があげられた。前者では、授業内容や授業方法を工夫し、複数の科目を連携させて実施することで学生が実践力を修得する機会となったこと、また後者では、様々なツールの活用や授業内容の工夫により、学修成果が得られたことを報告している。

表１　本研究で対象とした文献の概要

No	著者	テーマ	目的・対象・方法	結果概要
1.	石森由理（2006）	保育者養成における表現（造形）の授業の一展開（２）雑草との出会いを通して	目的：近年自然との関わりが薄れている。身近な環境に目を向ける意識も低くなっているように感じる。それは保育者を目指す学生にとっても同様である。子どもの豊かな感性を育む保育者になるためにも、学生自身が身近な環境に目を向けること、子どもたちと感動を共有するための素地をつくることが必要とされているのではないだろうか。「雑草」は幼児期の子どもたちにとって非常に身近なものである。保育者を目指す学生が、子どもの目線に立って雑草に再び出会い、「描く」ことを通してどのような気づきがあるだろうか。学生の気づきをアンケートからみていく。 対象：大学生 144 名 方法：質問紙調査	「描く」という行為は、対象に真摯に向き合う行為である。「描く」という行為を通して自分の目で本質を見極めていく。今回、身近にあって描く対象にすることもなかった「雑草」と向き合うことによって、私たちの世界を構成しているものの本質に少しでも触れたような感覚があったのではないだろうか。今後も身近な自然素材を使った教材を模索していきたい。
2.	斎藤久六（2008）	保育者養成における「図画工作科指導の基本的条件」－絵のテーマによる指導の違い－	目的：保育を目指す学生に絵は好きかと質問すると、半数以上の学生が絵を描くのは嫌いと答える。嫌いになった原因は幼稚園や小学校などで適切な指導を受けなかった結果と思われる。写実的表現を無理に要求するよう声がけをしたなら、子どもは絵を描くことを苦しく感じ、自信をなくして嫌いになってしまうだろう。子どもの絵の表現でテーマやねらいによって指導の仕方が大きく異なる。このテーマによるねらいを達成するには、表現内容に相応しい環境・材料を準備し指導助言する必要がある。これらを踏まえ学生に子どもの描いた絵を模写させテーマと内容による違いを、体験から意識させる試みを行った。 対象：大学生 12 名 方法：学生の描いた絵及び感想の検証	観察画・想像画・空想画・構成画の各テーマによるねらいを達成するには表現内容に相応しい環境や材料を準備し指導、助言をすることが大切である。実践後の感想として学生は「これを描いた子どもは、存分にサッカーを楽しんだと思いました」「子どもたちにも是非、自分独自の作品を作って欲しい」「その時の様子を思い出しながら子どもは描くと思う」と子ども理解に関する感想も見て取れたが一部、子どもの気持ちになりきれなかったところもあったとしている。 模写した学生は子どもの絵から模写することで子どもが注目しているところが何か、また、その気持ちにはじめて気づくことができる、その上で写実的表現にこだわらず、自由に開放的な絵がかけるように配慮することを重視し助言・指導することがポイントであるとしている。
3.	佐善圭（2009）	保育者養成校における造形教育の新たな授業試案とその成果－切り紙、染め紙を活用した造形指導の実践的研究－	目的：「美術に苦手意識を感じる」と回答した学生約７割（68%）「いままで学校において、創造の喜びや作品制作の充実感を味わうことができなかった」と回答した学生も約５割（52%）に達した。そこで造形に対する興味・関心を高める。「切り絵」「染め絵」を融合し窓ガラスに貼って展示を行う造形教育の新たな授業試案を実践し授業効果を評価する。 対象：大学生 126 名 方法：質問紙調査	「授業には意欲的かつ積極的に参加したか」において「とても意欲的かつ積極的に参加した」が 83.3%（105 名）「まあまあ意欲的かつ積極的に参加した」が 15.9%（20 名）「どちらでもない」が 0.8%（１名）と、ほとんどの学生が意欲的に参加した結果となった。また、入学までに切り紙を体験してきた学生が約７割存在するのに対して、「染め紙」を体験してきた学生が約３割程度しか存在していないことが確かめられた。保育者養成校の学生は子どもの造形活動を援助する保育者としての基礎的な技能や知識を身に付け表現手法の演習に取り組むが、その上で楽しく学ぶことが何より大切だとしている。
4.	佐善圭（2010）	保育者養成校における造形教育の新たな授業試案とその成果（２）シルバーリング制作を導入した造形指導の実践的研究	目的：幼児教育学科の美術研究室では「美術に苦手意識を感じる」と回答した学生は 66.6%、「今まで学校での美術・図画工作において、創造の喜びや作品制作の充実感を感じることがなかった」と回答した学生も 49.4% に達した。授業では、まず表現を引き出し尊重・共感しその楽しさを共有できる心と身体の在り方を学ぶことが重要である。新奇な素材を活用し興味・関心を高め造形本来の楽しさを追求する。シルバーリングの制作を通じて触れたことのない素材に触れたり身につけるものを制作する体験を行う。 対象：大学生 158 名 方法：質問紙調査	受講した学生に対し質問紙調査を行ったところ「授業に意欲的かつ積極的に参加しましたか」の質問に３年間の平均では８割（83.6%）を超す学生が意欲的かつ積極的に授業に臨んでいることがわかり「積極的に参加しなかった」と回答した学生は一人もいない結果となった。４週連続で構成されている授業のため欠席者への配慮や作成物を外部へ委託することへの検討・改善も必要だが「満足度はどの程度ですか　５段階で評価してください」では「５」と「４」を合わせると平均は 94.4% となり、総じて学生が満足している結果となったとしている。
5.	佐善圭（2011）	保育者養成校における造形教育の新たな授業試案とその成果（３）シルクスクリーン版画制作を導入した造形指導の実践的研究	目的：入学後の最初の授業で行った質問紙調査で「美術に苦手意識を感じる」と回答した学生 65.1%（４年間の平均）「今までの学校で美術・図画工作において、創造の喜びや作品制作の充実感を感じることがなかった」50.4% に対し、シルクスクリーンを用いたＴシャツの制作を通し知的好奇心・造形的関心の喚起を行う。また、展示会を実施し客観的評価を得る取り組みを行った。 対象：大学生 158 名 方法：質問紙調査	「授業の満足度はどの程度ですか　５段階で評価してください」において、「５」が４年間平均して 61.3%、「４」が 30.8% となり、学生の満足度は高いことが推察できた。展示会についても「とても必要」29.1%「必要」65.2%（５件法）作品展の必要性を感じていることが窺えたとしている。これらの結果から筆者は造形において好奇心と関心を喚起させる為の取り組みとして学生がしたいことを活動に盛り込むことも重要であるとしている。
6.	智原江美・下口美帆（2012）	大学における科目を連携させた授業の取り組み：「図画工作」と「幼児体育」の授業実践報告（３）	目的：子どもを対象とした取り組みを行うこと、加えて、保育者として実践に活用できるように保育の指導計画を立案して活動を行うことを目的として「図画工作」と「幼児体育」の科目を連携させた総合的な取り組みを行ったので、その取り組みについて報告する。 対象：大学生 24 名 方法：質問紙調査	今回の「図画工作」と「幼児体育」の連携授業としての取り組みは、投球動作習得をねらいとした「保育者としての教材作成」から「保育現場での実践」へと繋げることができ、学生の学びを深めることができた。

7.	花田千絵（2017）	「図画工作」の授業計画と幼稚園実習における学習成果：アンケート調査から	目的：年々、素材体験が乏しく、応用力のない学生が目立ってきたように感じている。授業計画は、毎年、学生の実態に合わせて修正・検討し制作しているが、それらが学生たちによって実習でどのように活かされているか、活用の際に生じる問題点、および学習効果について明らかにすることによって、今後の授業計画につなげたいと考えた。 対象：大学生 135 名 方法：質問紙調査	実習中に造形活動を行う際に、季節や行事、幼児の発達や興味関心を重視する一方で幼稚園教育要領や保育所保育指針を重視しない結果であったが、造形活動を行う際特に季節や行事を意識する学生が多いことが本学の特徴であることがわかった。
8.	山成昭世（2017）	さまざまな技法で平面に表す造形表現について：絵の具やパスを使った表現力を高めるための試み	目的：保育者を目指す学生の中では「小さいころから、絵を描くのが下手」「見たとおりに思ったように上手く描けない」「絵を描くのが嫌い」など造形表現に苦手意識を持つ学生は多い。本稿は教職・保育職を目指す学生にさまざまな技法を使った表現を軸とし基礎から応用まで系統性を持たせた授業が、どのように学生の表現力を高めるための効果が得られたか探る。 対象：大学生 64 名 方法：質問紙調査	アンケートからはさまざまな技法による学習は表現の多様性を学ぶことができ、新たな技法が加わることで造形表現が深まり広がっていくことが理解できていた。加えて造形表現の選択肢が多くなり苦手意識を克服し自信へと繋がっていった。今後、学生自身の豊かな表現力を育み、教育者・保育者としての資質向上につながるようさらに授業内容を検討し、充実を図りたいと考える。
9.	木谷安憲（2020）	自分の子ども心に触れる描画活動「かいてみよう子ども心」：－子ども心で描いた大人の絵と園児の絵－	目的：自分の中にある子ども心に意識を向けることが、実際の幼児理解にもつながるのではないかと考え、「描いてみよう子ども心」という描画活動に取り組んだ。他者である子どもを外部から観察するのではなく、自分の中にある子どもに共感できれば、子どもに対しての理解や共感につながると考える。まず学生は自分の子ども心に触れるような描画活動をする。その後、スライドで見る実際の子どもの絵にある子ども心に触れる。その上で、複数の子ども心を意識しながら、今の大人の自分として絵をという流れの活動だ。その上でこの活動がどのような観点から幼児理解につながりどのように保育に役立つのかを明らかにしたい。 対象：大学生 120 名 方法：質問紙調査	最終的に約９割の学生が子どもに戻れて絵が描けたと回答し、約９割の学生が子どもに戻って絵を描くことは保育の役に立つと回答した。そして同じく９割以上の学生が、子どもに戻って絵を描くことが保育に役立つと思うと回答した。実際の園児の子ども心を、今の自分がうまく溶解させながら大人の自分として絵を描くことは、何らかの形で保育の役に立つという可能性を示せたと考える。
10.	山田修平・川辺洋平（2020）	保育者養成課程学生の教育実習における造形活動に対する学びの現状と課題	目的：造形活動についてネガティブな意見が散見される。本研究は、教育実習に参加した保育者志望の学生が、どのように保育活動をとらえているかということを、とりわけ造形活動に焦点を絞って明らかにし、実習事前事後のあるべき指導について考察した。 対象：大学生 141 名 方法：質問紙調査	実習活動を振り返る学生の言葉からは、教育現場を俯瞰的に見ることの難しさと、前向きに捉えきれない事例に遭遇した学生へのフォローアップの必要性が明らかになった。本論では保育者養成課程の学生が実習事前の学習において、知識・技能に加え、自分とは異なる保育者の世界を俯瞰的に理解する視点を習得していることが重要であるという示唆を提言したとしている。
11.	樽井美波（2021）	保育者養成における造形表現の遠隔授業の実践と課題	目的：本論は、保育者養成校における造形表現に関する科目「図画工作」の遠隔授業の実践から、成果と今後の課題について考察するものである。 対象：大学生 99 名 方法：質問紙調査	これまでは多くの場合、対面の形態で授業が行われてきたが、検証の結果、遠隔での授業であっても、一定の学修成果を得ることが可能であった。一方で、教員と学生、学生と学生が同じ場所・時間を共有する対面での授業でしか獲得できない学びがあることも明らかとなった。
12.	堀舘秀一・清水由朗（2021）	図工科教育におけるICT を活用したコマ撮りアニメーション制作の授業実践とその効果について	目的：保育における造形表現という美術関連の学びの領域で考える場合、この世代の弱点として「つくる」体験の不足があるのではないだろうか。何度でもやり直せる「デジタルメディア」による「メディア・アート」を用いてコマ撮りを授業実践方法に取り入れ効果測定するものである。 対象：大学生 38 名 方法：質問紙調査	「割りピンキャラクターを思いつくことは簡単でしたか」に対し「1. はい、簡単に思いつきました」16 名（42.1%）「2. 制作するうちに思いつきました」17 名（44.7%）「3. はい思いつきましたが、制作しているうちに、別のものに変化しました」５名（13.2%）ほとんどの学生が、割りピンキャラクターを思いつくことは簡単であったと捉えていた。また子どもたちが、粘土を主な材料として、段ボールや石、木片、アクリル絵の具を用いた手仕事により、各チーム内での話し合いを通して制作する時間が全体の半分を占め、残りの半分を撮影・編集時間にあてており、バランスの取れた授業設計であるといえる。

表２　各文献で指摘された課題の分類

No	分類名	抽出された課題の分類（番号は表１に対応）	課題
2－１.	学生側に起因している課題	理解と経験の不足	造形の経験や生活経験が乏しく応用力のない学生（No.７・No. 12） 子どもと絵のテーマに応じて指導する重要性や子どもを理解し造形指導につなげる活動の可能性（No.２・No.９）
		造形に対する苦手意識	「環境に目を向ける意識の低下」（No.１） 「今まで学校での美術・図画工作において、創造の喜びや作品制作の充実感を感じることがなかった」と回答した学生も 49.4% に達した（No.４） 授業や造形そのものに対する「興味・関心の低下」と、「小さいころから、絵を描くのが下手」「見たとおりに思ったように上手く描けない」「絵を描くのが嫌い」（No.３・No.５・No.８・No. 10）
2－２.	教員側に起因している課題	授業実践方法の開発が求められる	五領域の領域間の連関性の希薄化（No.６） 造形の遠隔授業の実践方法に関する課題検討（No. 11）

Ⅳ　考察

今回の文献調査は造形について保育者養成校の取り組みとして大学または短期大学および専門学校で実施されており、造形指導の課題について触れられており、かつ質的または量的な根拠をもとに効果について検討しているものを研究対象とし文献の内容を分析するものであった。

先行研究から読み取れる課題は大きく分けて「学生側」と「教員側」であった。「学生側に起因している課題」として「理解と経験の不足」と「造形に対する苦手意識」に対してのアプローチが検討、実践されていることが明らかになった。一方、「教員側に起因している課題」は、教員側が幼稚園教育要領等を深く理解し五領域を俯瞰する視点を持つことや、コロナ禍による授業方法の変更への対応等、工夫しながら授業実践が行われることの必要性を指摘するものであった。また、保育者養成校入学以前の造形活動の経験や生活経験の不足や入学以前に形成された苦手意識など、「学生側に起因している課題」に対して、保育者養成校での造形の授業において十分に解決方策を提供できているのかということは今後も検討していく必要がある。

今回、先行研究を調査する中で、学生が抱える課題の一つとして「造形に対する苦手意識」が示されたが、その原因と苦手意識そのものの全体像についてはまだ明らかにされていない点が見られたため、調査および改善のための授業実践方法の検討を進めて行く必要がある。それらの苦手意識は、佐善（2009）の指摘するように「入学以前の美術教育」に由来するものであったり、もっと遡れば、山田ら（2020）の指摘するように幼少期に先生から否定されたことによるものであったりする。つまり、学生が造形に対して抱く苦手意識も、もちろん造形に関する理解や経験の不足も、養成校への入学前にすでに学生が抱えているものであり、それらに焦点を当てるならば「学生側に起因している課題」として認識される。そして、養成校においてそれらの学生のためにできるのは、よりよい学習機会を提供することであると考えられ、よりよい実践方法に焦点を当てるならば「教員側に起因している課題」として認識されるのではないだろうか。すなわち、それら両方の課題について検討し、実践を行っていくことが、車の両輪のように造形の授業実践の改善を推進していくものであると考えられる。槇（2008）が指摘しているように、保育者となる学生に最も重要なのは、「『創作することの楽しさ』、『表現することの素晴らしさ』などを体感し、子どもの喜びに共感できる豊かな感性を身に付けること」である。今後は、学生の持つ造形への苦手意識に着目しながら、不足する造形への理解や経験を補い、造形を楽しく指導できる保育者を育成すべく、授業内容や方法を模索していきたい。

文献

花田 千絵．(2017).「図画工作」の授業計画と幼稚園実習における学習成果：アンケート調査から　作新学院大学女子短期大学研究紀要，1，92-99.

林 有紀．(2013). 教育研究活動報告 視野を広げる造形活動：教育現場における造形指導の工夫についての実践報告　京都文教短期大学研究紀要，52，209-215.

堀舘 秀一・清水 由朗．(2021). 図工科教育におけるICTを活用したコマ撮りアニメーション制作の授業実践とその効果について　創価大学教育学論集，73，207-216.

石森 由理．(2006). 保育者養成における表現（造形）の授業の一展開（２）－雑草との出会いを通して－　千葉敬愛短期大学紀要，28，205-211.

岩田 健一郎．(1993). 幼児版画のオートマティスム性についての考察　近畿大学豊岡短期大学紀要，21，83-94.

金山 和彦．(2001). 伝統的プログラム：技法あそびの実践状況について（保育者への質問紙調査をもとに）　新見公立短期大学紀要，22，123-126.

木谷 安憲．(2020). 自分の子ども心に触れる描画活動「かいてみよう子ども心」－子ども心で描いた大人の絵と園児の絵－　大学美術教育学会「美術教育学研究」，52，145-152.

厚生労働省．(2018). 保育所保育指針

槇 英子．(2005). 保育をひらく造形表現　萌林書林　15.

松下 明生．(2015). 幼児の造形活動と小学校図画工作科の内容分析：文部科学省検定済教科書に見る幼児課題との同一性と教育内容の変遷　名古屋柳城短期大学，37，75-86.

文部科学省．(2018). 幼稚園教育要領　フレーベル館

文部科学省．(2018). 幼稚園教育要領解説　フレーベル館

中島 法晃．(2019). 造形指導に不安を抱える保育者にとって有効な表現素材と活用のあり方～保育者研修会のワークショップ事例を通じて～　岐阜女子大学紀要，49，59-65.

大岩 みちの・本山 益子・影山 捷司・麓 洋介．(2005). 表現する者の養成のために －保育内容「表現」の授業への取り組みから－　岡崎女子短期大学研究紀要，39，97-107.

斎藤 久六．(2008). 保育者養成における「図画工作科指導の基本的条件」－絵のテーマによる指導の違い－　尚絅学院大学紀要，56，185-194.

佐藤 智朗．(2020). 短期大学における保育者養成の課題 －造形教育からの考察－　山口芸術短期大学研究紀要，52，33-59.

佐善 圭．(2011). 保育者養成校における造形教育の新たな授業試案とその成果（３）シルクスクリーン版画制作を導入した造形指導の実践的研究　岡崎女子短期大学研究紀要，45，41-52.

佐善 圭．(2010). 保育者養成校における造形教育の新たな授業試案とその成果（２）シルバーリング制作を導入した造形指導の実践的研究　岡崎女子短期大学研究紀要，44，23-33.

佐善 圭．(2009). 保育者養成校における造形教育の新たな授業

試案とその成果 －切り紙、染め紙を活用した造形指導の実践的研究－　岡崎女子短期大学研究紀要，43，31-40.
篠田 美里・中島 法晃．(2012)．保育者養成における表現技術指導の事例と考察：幼児音楽 基礎技能から保育の表現技術への転換事例と考察　幼児美術　粘土造形表現活動の事例と考察　東海学院大学短期大学部紀要，38，57-65.
樽井 美波．(2020)．保育者養成における造形表現の遠隔授業の実践と課題　清泉女学院短期大学研究紀要，39，31-42.
智原 江美・下口 美帆．(2012)．大学における科目を連携させた授業の取り組み：「図画工作」と「幼児体育」の授業実践報告（３）　京都光華女子大学短期大学部研究紀要，50，67-85.
鳥越 亜矢・吉田 康男．(2001)．授業科目「表現 IIA」における学びの実態から授業改造を考える：授業中のつまずき、失敗が示すもの　山陽学園短期大学紀要，32，45-68.
辻 泰秀．(2012)．造形教育の教材と授業づくり　横山印刷株式会社，34-35.
若杉 雅夫．(1998)．幼児の絵の発達段階とその援助と指導について　東海女子短期大学紀要，24，147-157.
若杉 雅夫．(2009)．幼児の表現活動についての考察 －幼児の版画活動の製作と展開（１）－　東海学院大学短期大学部紀要，35，43-51.
山田 修平・川辺 洋平．(2020)．保育者養成課程学生の教育実習における造形活動に対する学びの現状と課題　淑徳大学短期大学部研究紀要，61，69-89.
山成 昭世．(2017)．さまざまな技法で平面に表す造形表現について －絵の具やパスを使った表現力を高めるための試み－　京都聖母女学院短期大学研究紀要，46，47-59.

付記

本論文に関して、開示すべき利益相反事項はない。

Literature Review on the Issues of Modeling Classes in Childcare Worker Training Facilities

Takayuki Otsuka　Tatsuya Inada

Osaka University of Comprehensive Children Education Graduate School

Toyooka Junior College

Infants are expected to cultivate their sensibilities while being impressed by new things through experiencing many modeling expressions based on free ideas. In order to train childcare workers who enable such experiences, various lesson practices are being carried out at childcare worker training schools. In this study, 12 papers, which were on the issues that the modeling classes had in the nursery school and the lesson practice for solving them, were reviewed. There were two patterns of issues that can be learned from these researches. “Issues belonging to the students’ side” were composed of “lack of understanding and experience” and “awareness of weakness in modeling,” and lesson practices targeting these issues were being carried out. It was also pointed out that “issues belonging to the teachers’ side” such as having a deep understanding of the guidelines and the five areas and responding to changes in the teaching method due to COVID-19 pandemic were needed to be tackled.

Key words：childcare worker training, “Expression” in the five areas, modeling classes